復興支援
ボランティア活動

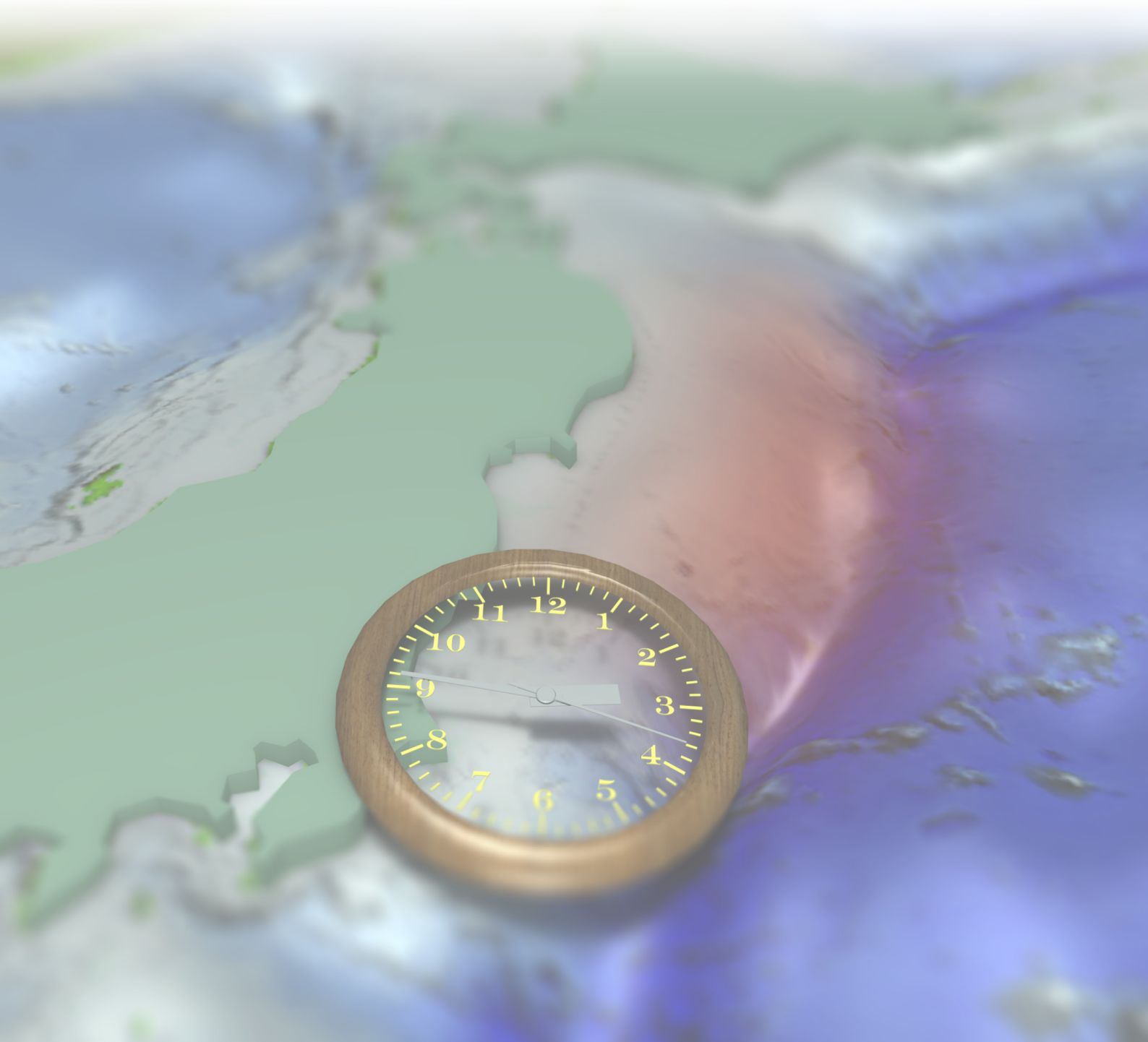
～ 少しでも多くの被災者の方に
笑顔を取り戻していただくために ～

２０１１年7月１６日（土）
１７日（日）

がんばろう東北
HOPE TOUHOKU FROM YAMASA

山佐株式会社

東北地方太平洋沖地震の被害により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと供に、そのご遺族、被災された皆様に対しまして、心からお見舞いを申し上げます。



3.11東北地方太平洋沖地震

死者	：	15597 人
行方不明者	：	4980 人
負傷者	：	5694 人
家屋全・半壊	：	23.5 万戸以上

２０１１年７月２０日警察庁発表

波
原発
未曾有の大災害

震災から

震災直後の石巻市立病院付近

震災から４ヶ月後の石巻市立病院付近
遠目には瓦礫の撤去が進んでいるようにみえるが・・・

復興へ

4ヶ月

自衛隊による瓦礫の撤去作業

ボランティアによる瓦礫の撤去作業

仮設住宅の設置作業

笑顔はまだ…

概　要

～ 少しでも多くの被災者の方に
笑顔を取り戻していただくために ～

山佐独自に **炊き出し支援** を実施

メニュー

（Ｐ８）

９品目

４３００食以上

ソフトドリンク

700 本

プレゼント

（Ｐ９）

山佐オリジナルグッズを
プレゼント

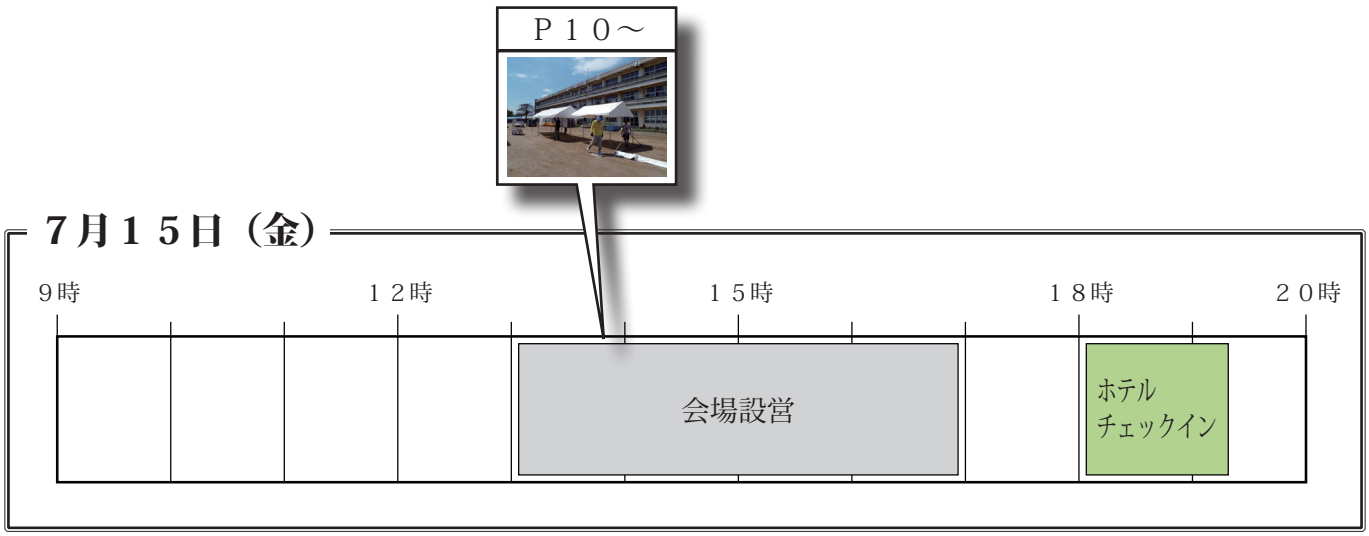
会場

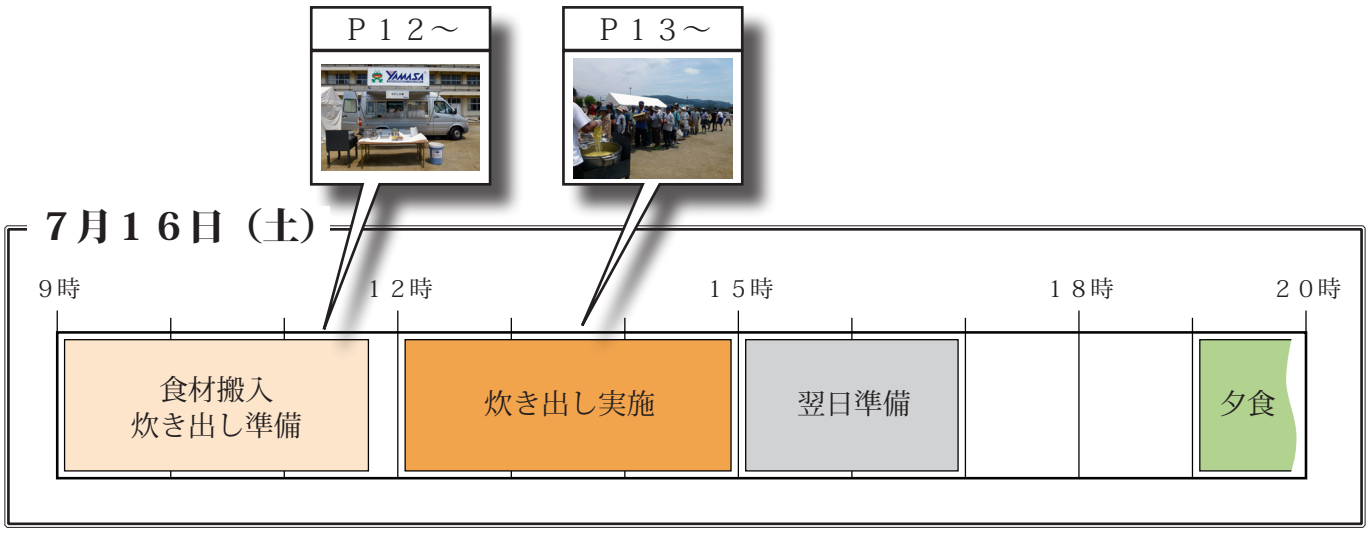
（Ｐ１０）

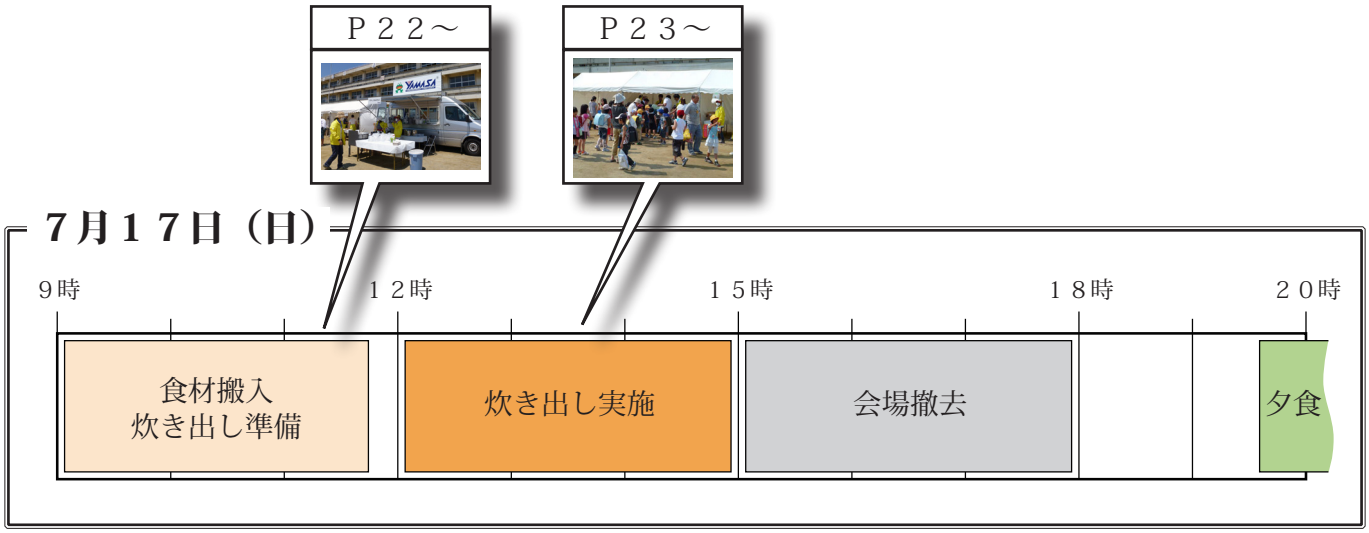
会場は、日電協・回胴遊商のシャワーサービスにてご好評を得ております

渡波小学校

スケジュール


Ｐ１０～
７月１５日（金）
９時
１２時
１５時
１８時
２０時
会場設営
ホテル
チェックイン


Ｐ１２～
Ｐ１３～
７月１６日（土）
９時
１２時
１５時
１８時
２０時
食材搬入
炊き出し準備
炊き出し実施
翌日準備
夕食


Ｐ２２～
Ｐ２３～
７月１７日（日）
９時
１２時
１５時
１８時
２０時
食材搬入
炊き出し準備
炊き出し実施
会場撤去
夕食

炊き出しメニュー

７月１６日

冷やし中華
４００食

お好み焼き
４００食

中華丼
５００食

フルーツポンチ
４００食

かき氷
４００食

７月１７日

冷やし
たぬきそば
４００食

揚げたこ焼き
４００食

うな玉丼
５００食

ケーキ類
４８０食

かき氷
５００食

ソフトドリンク
２日間通しでご提供

ｅｔｃ．計７００本

プレゼントグッズ

オリジナルカレンダー

被災地支援のために製作された特別製のカレンダー。
ケロット、ケロルンのかわいいイラストを満載しています。

ケロット、ケロルンぬいぐるみ

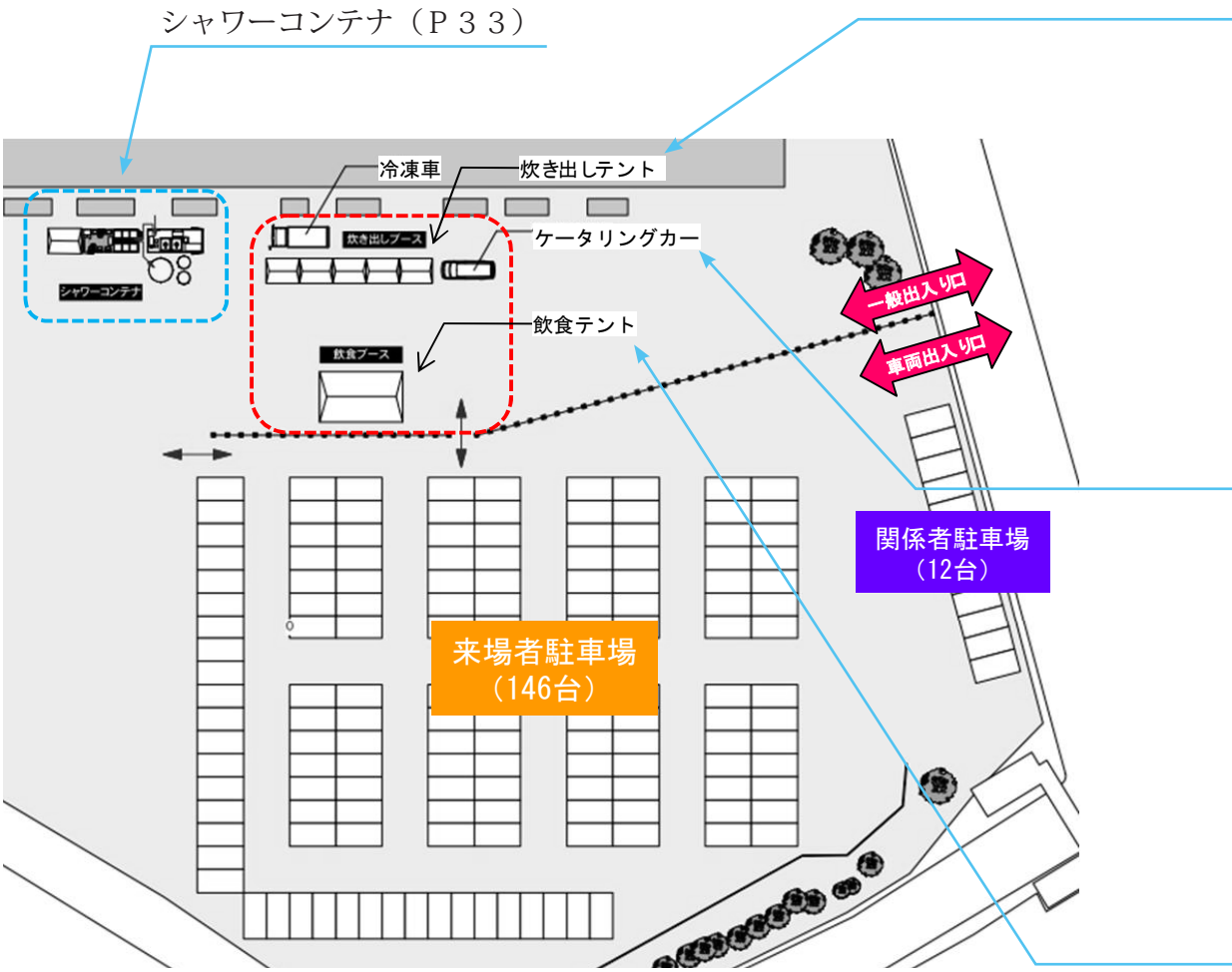
山佐マスコットキャラクターのぬいぐるみ
それぞれ 100 ヶずつ配布

ケロットポケットティッシュ

山佐マスコットキャラクターの
ポケットティッシュ

会 場 設 営

下榎場
渡波
石巻線
193
398
JAいしの
まき渡波支店


シャワーコンテナ（P３３）
冷凍車
炊き出しテント
ケータリングカー
飲食テント
炊き出しブース
飲食ブース
シャワーコンテナ
一般出入り口
車両出入り口
関係者駐車場
（12台）
来場者駐車場
（146台）

設営の様子

会 場 設 営

炊き出しテント

パイプテント
　Ｗ３６００×Ｄ２７００　５張

衛生面に考慮し、風雨からテント内を守る横幕付き。

ケータリングカー

ケータリングカー

衛生面に留意し、ケータリングカーを導入。

飲食テント

パイプテント
　Ｗ９０００×Ｄ５４００　１張

３人用ベンチ
　Ｗ１８１０×Ｄ５４００　１６脚（４８名対応）

雨が降ってもゆっくりとお食事いただける、ゆとりのスペースを提供する。

その他

ゴミ箱　（６個）

会場を清潔に保つためにゴミ箱を設置。

各種案内表示

スムーズな運営を実現するために準備。

炊き出し準備（初日）

Sunfield

フルーツポンチ
YAMASA

ソフトドリンク
YAMASA

中華丼
YAMASA

YAMASA
AMUSEMENT FACTORY
冷やし中華

炊き出しの様子（初日）

冷やし中華

炊き出しの様子（初日）

お好み焼き

大行列

炊き出しの様子（初日）

中華丼

炊き出しの様子（初日）

フルーツポンチ
とプレゼントコーナー

炊き出しの様子（初日）

炊き出しの様子（初日）

かき氷

小学校バスが到着。
（Ｐ４３をご参照ください。）

炊き出しの様子（初日）

これもかけようかな～

大人も子供も、かき氷に釘付け

旨っ

小学生の行列

炊き出しの様子（初日）

飲食テント

炊き出しの様子（初日）

炊き出し終了時ミィーティング

炊き出し準備（２日目）

炊き出しの様子（２日目）

冷やしたぬきそば

炊き出しの様子（２日目）

揚げたこ焼き

炊き出しの様子（２日目）

うな玉丼

炊き出しの様子（２日目）

ケーキ
とプレゼントコーナー

炊き出しの様子（２日目）

かき氷

炊き出しの様子（２日目）

ソフトドリンク

炊き出しの様子（２日目）

炊き出し終了時 ミィーティング

渡波小学校の様子

校舎内支援本部

渡波小学校の様子

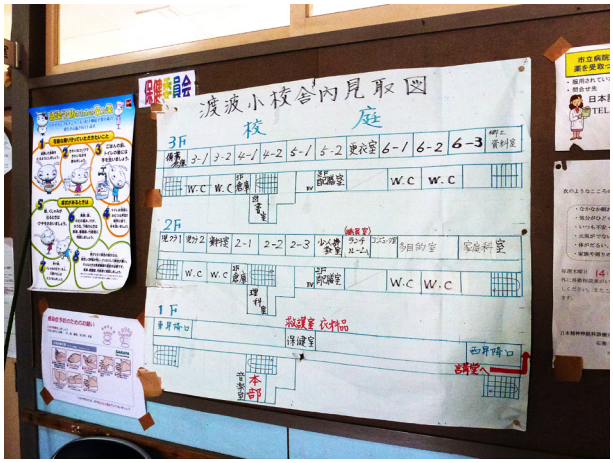
たんざくに
ねがいをこめて

服の分類にご協力下さい
衣類整理中につき
本日休業
廊下の服をご覧下さい

おすすめ
コーディネート
服の分類にご協力下さい

渡波小学校の様子

被災者自身による、炊き出しの調理場
（Ｐ４３をご参照ください）



シャワーコンテナ

日電協、回胴遊商によるシャワーコンテナ

７月６日より活躍中のシャワーコンテナ

石巻市でも、特に大きな被害を受けた渡波地区。入浴施設については整っておらず、近隣の施設までバスで移動し使用している状況とのことです。
避難所の方も、８月末に仮設住宅に入居完了との予定との事で、シャワーコンテナもそれに合わせ終了する予定のようです。

日本電動式遊技機工業協同組合　回胴式遊技機商業協同組合

女川の現状

人通りのない道路に屋台

女川の現状

航空機写真や高台で見るのと、人の目線の高さで見るのでは、光景が大きく異なる。

津波により破壊されたパチンコホール

石巻の現状

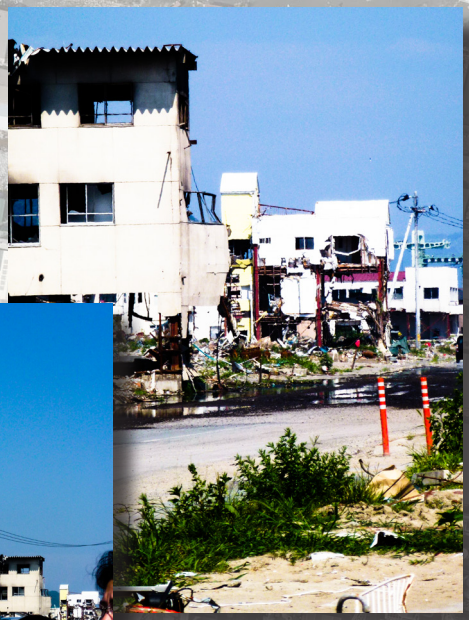
Port
石巻

YAMASA
AMUSEMENT FACTORY

石巻の現状

of Ishinoma
港

石巻の現状



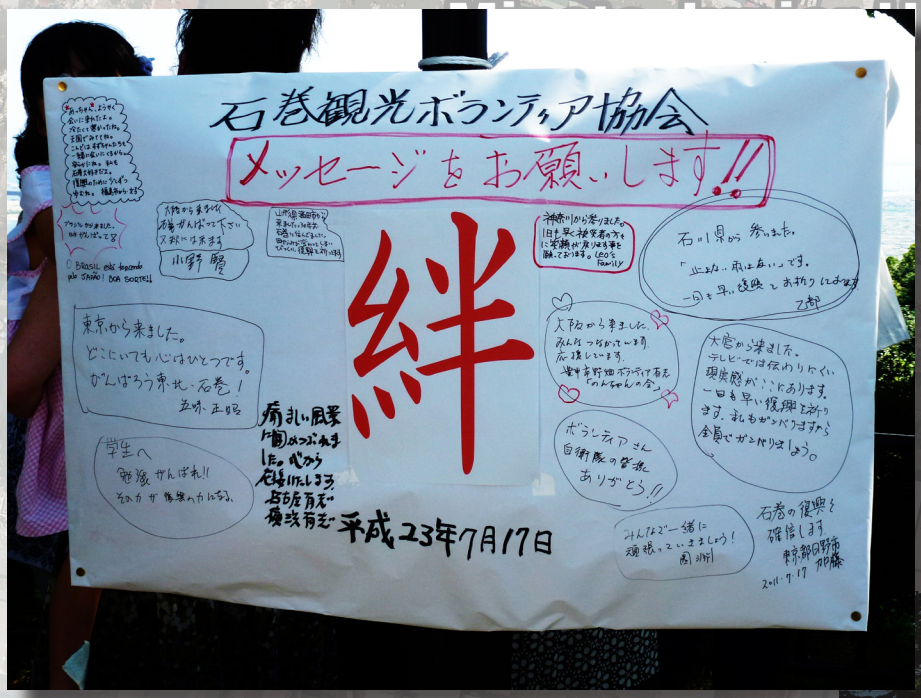
石巻の現状

waki

門脇

石巻市立病院

石巻の現状


石巻観光ボランティア協会
メッセージをお願いします!!
絆
東京から来ました。
どこにいても心はひとつです。
がんばろう東北・石巻!
五味・正明
学生へ
勉強がんばれ!!
石巻の復興を
確信します
平成23年7月17日

全国のみなさん
救援ありがとう!

がんばろう石巻

山佐の活動が紹介されました

がんばろう東北
HOPE TOUHOKU FROM YAMASA

週刊アミューズメントジャパン
(第 288 号 2011/08/01)

山佐
炊き出しで被災地支援　「被害者に笑顔を」

山佐が「少しでも多く被災者の方に笑顔を取り戻してもらう」ことを目的に、7月１６日、１７日の２日間、宮城県石巻市の渡波小学校グランドで炊き出しを行った。

炊き出しには、同社のスタッフを含む約３０名が参加。メニューにはこだわり、冷やし中華やうな玉丼、かき氷など、季節に合わせたメニューを用意。炊き出しを待ちわびた渡波小学校へ避難している人や周辺の住民が一斉に押し寄せ、1日２００食のフードが瞬く間になくなった。

当日は、山佐のメインキャラクター、カエルの「ケロット」と女の子カエルの「ケロルン」のぬいぐるみ２００個を子供たちにプレゼント。被災者から、「震災後、時間の感覚がなくなった」との声があったことから、急遽７月から１２月までのミニカレンダーを製作、配布した。会場では、日電協・回胴遊商の被災地支援として巡回しているシャワーコンテナも提供された。

娯楽産業協会 since 1964

山佐 渡波 (石巻) で炊き出し支援

(2011/08/03)

山佐(株)(本社／岡山県新見市)は7月16、17日、宮城県石巻市の渡波小学校避難所を訪問し、住民らに炊き出し支援を行った。

この活動に参加したのは、山佐をはじめ、山佐産業、岡山石油、ナイス商事、日成仙台の社員ら約30名。本社のある岡山県や、北海道などから参加した社員は、手際のよい分担で炊き出し作業に当たった。

今回の支援活動の中心的役割を担った山佐(株)の吉国純生執行役員は、

「震災から4カ月が経過し、被災された人達の心にも余裕が出始めればいいと思っていたが、現地を見ればそのような甘い状況ではないことがよくわかった。
渡波小学校の避難所にはまだ160名以上の人々が集団生活を送っているようで、周辺には自宅避難している人も多い。
皆さん家屋に大きなダメージを受けている中、頑張っている姿を見た時、何とかして笑顔を与えられたら、との思いからこの支援活動を実施することにした。」

と語るとともに、率先して作業を行い、住民たちと談笑するなど交流を深めていた。

山佐の活動が紹介されました

<フェイム>
21 Fame
First Amusement Magazine of East Japan
8月号
vol. 216

ニュースクリッパーズ

ニュースクリッパーズ

山佐㈱ 7月16・17日

東日本大震災「笑顔」の炊き出し支援

山佐株式会社（佐野慎一社長、本社岡山県新見市）は7月16・17日の両日、宮城県石巻市渡波小学校避難所を訪問し、東日本大震災で多くの被害を受けた住民らに炊き出し支援を行った。

被災地周辺では、今も大小様々な余震が連日のように起こるばかりでなく、地盤沈下が激しかったこの地区では、5月6月の大潮の頃、海水が流れ込み浸水の被害を受け、今は夏の暑さとハエの大量発生で生活が脅かされている。そうした渡波地区の住民に少しでも笑顔を取り戻してもらうことを願っての炊き出し実施となった。この支援活動に参加したのは、山佐はじめ山佐産業・岡山石油・ナイス商事・日成仙台の社員ら30名弱。遠くは岡山県から、また北海道から参加した社員もいたほどで、当日は手際のよい分担で、炊き出し作業に当たっていた。

炊き出しメニューは、16日が「冷やし中華」「お好み焼き」「中華丼」「フルーツポンチ」「かき氷」。17日は「冷やしたぬきそば」「揚げたこ焼き」「うな玉丼」「ケーキ（3種類）」「かき氷」で各400食分が用意されたほか、ソフトドリンク類を1日300本提供した。

配給開始予定が正午であったにも係わらず、両日とも午前10時頃から住民が集まりだし、渡波小学校校庭に特設されている通称・談話小屋というテント内では、高齢者たちが互いに持ち寄った菓子を分け合いながら談笑する光景が見られたが、正午近くになると配給を待つ列ができ出し、僅か2時間を待たずして予定数を全て消化してしまう人気ぶりだった。

〝自宅避難者〟という60歳代の女性は「この地区ではスーパーマーケットのような量販店がまだ再開されていないので、中心街まで（5㎞位の距離）自転車で買い出しに行くのが日課。夏になったので暑さが身にしみます。このように旬なものがいただけることはとても有難いです」と「うな玉丼」に舌鼓を打っていた。

一方、今回の支援活動の中心的役割を担った山佐㈱吉国純生執行役員は、「震災から4カ月が経過し、被災された人達の心にも余裕が出始めればいいと思っていたが、現地を見ればそのような甘い状況ではないことがよくわかった。渡波小学校の避難所にはまだ160名以上の人々が集団生活を送っているようで、周辺には自宅避難している人も多い。皆さん家屋に大きなダメージを受けている中、頑張っている姿を見た時、何とかして笑顔を与えられたら、との思いからこの支援活動を実施することにした」と語るとともに、率先して作業を行い、住民たちと談笑するなど、交流を深めていた。

子供たちに大人気だった
山佐オリジナルのティッシュペーパーと
7月からの特製カレンダーも配布された

間借り校舎で授業再開　転校しても「戻ってきたい」

msn 産経ニュース

2011.5.11 00:10

石巻市立渡波小は市内の別の小中学校の教室を借りて授業を再開した。初めての下駄箱に迷う児童の姿も＝９日午前、宮城県石巻市（松本健吾撮影）

東日本大震災から２カ月がたち、宮城県石巻市立渡波（わたのは）小学校でもようやく授業が再開された。しかし、市の方針変更のため、バスで３０分離れた中学校と小学校の校舎を間借りすることに。転校する友達もさらに増え、始業式に３５０人以上いた児童は３０６人になった。それでも子供たちは新たな一歩を踏み出した。

《５月１０日　きょうも離ればなれで勉強した》

渡波小が間借りしたのは貞山小学校と、その隣の山下中学校。１校で全員を受け入れられず、１、２年は貞山小、３～６年は山下中と離ればなれになった。

渡波小からバスで“登校した”２年１組の一仙（いっさ）君（７）は「明日もバスで行くっていうから転校したの？」と間借りの意味を理解できずに首をかしげた。

《５月９日　ようやく授業が始まった。中学校の教室はなんでもでかい！》

「黒板届かねえ！」。５年２組の亮哉（りょうや）君（１０）は黒板に日付を書こうとしたときに驚いた。理科室のイスも足が床に届かない。「危ないから実験は立ったままやらせなきゃ」。理科専科の鈴木牧子先生が問題点を洗い出していた。

この日朝、渡波小の校庭に集まった児童は大型バス６台に分乗。「遠足みたい」と喜ぶ４年１組の鈴音（すずね）ちゃん（９）は山下中の校舎４階から外を見下ろし「眺めもすごい」。

《４月末　間借りが正式に決まった》

高橋義樹校長は苦渋の決断を迫られた。

これまでは校舎での授業再開を目指し、避難所になった教室を空ける努力を続けてきた。しかし、市教委が「津波を受けた校舎は危ない」と方針を転換、再考を余儀なくされた。

「子供たちのことを一番に考え、一刻も早く勉強できる環境を整えたい」。高橋校長は市教委の方針受け入れを決め、連休中も保護者説明会や授業開始の準備を急ピッチで進めた。

《４月２７日　転校がいやで避難所を飛び出した》

「山形行くことが決まったぞ」。渡波小体育館で避難生活を続ける一仙君は父親の一洋さん（６３）からそう聞かされると、「行かない」と反対し、体育館を飛び出した。

４年２組の姉、ここあちゃん（９）とも山形の避難先に応募することは４月上旬に聞いていた。そのときは「いつか戻ってくる」と言われ納得していたが、実際に決まると心は揺れた。「友達に会えなくなるから行きたくない」。かたくなな弟を見て、ここあちゃんも反対した。

「電話もらったばかりで申し訳ないんですが…」。一洋さんは少し悩んだ末、石巻市役所に断りの電話を入れた。

《５月６日　隣の学校に転校が決まった。いつか絶対戻ってくる》

４年生の蓮（れん）君（９）は、母親の亜紀さんと渡波小にお別れをしに来た。「何かあっても遠くて迎えに行けないのが怖くて…」。車が津波に流された亜紀さんは、校舎の間借りを受けて、隣の万石浦（まんごくうら）小へ転校させることを決めた。

蓮君は母親から転校を言われ驚いた。でも、友達も一緒に転校すると知り、自分を納得させた。

「最初に友達がたくさんできたのが渡波小。いつか絶対戻ってきたい」

石巻市教委は、年度中にも近くに仮設校舎を建てる方向で検討している。

避難所の調理で雇用創出＝時給払い、食事提供継続「自立への一歩」支援・宮城

時事通信社

copyright(c) JIJI PRESS LTD., All Rights Reserved.

東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県石巻市で、被災者が自ら調理、配膳を行うことにより雇用を生み出している避難所がある。発案した青年海外協力隊ＯＢ菅野芳春さん（４７）は「賃金を得ることで生活基盤ができ、生きがいになる」と話し、自立への一歩につながればと期待する。

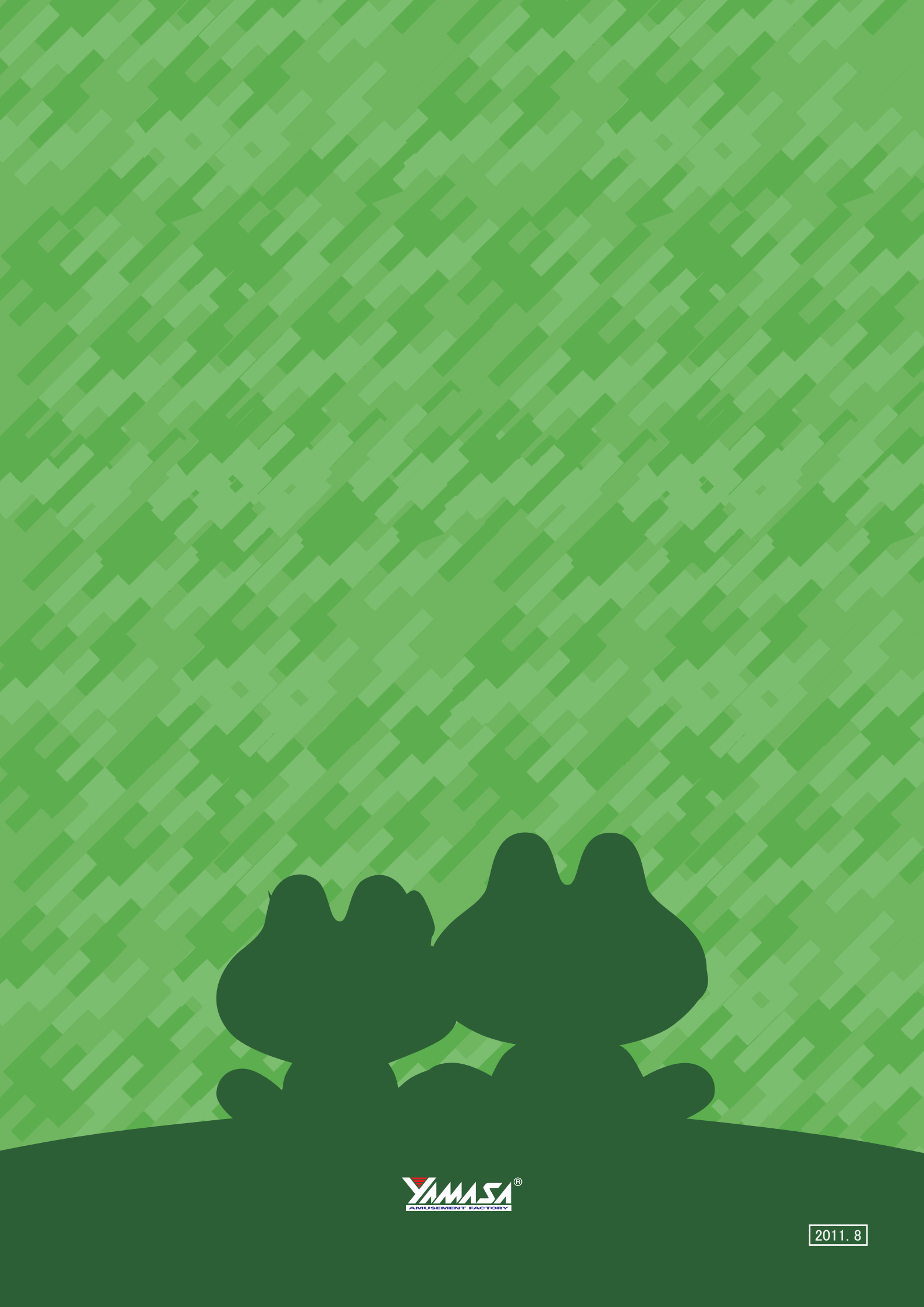
この避難所は市立渡波小学校。５月下旬、女性８人が昼食のカレーの準備をしていた。米を炊く、野菜を切る、配膳するなど役割を分担。手際良く調理し、自宅に住む被災者も含め約１０００人分を３時間弱で作った。

いずれも被災者で、避難所の調理を有償で受け持つ。時給７５０円で週３、４回、昼食の調理や配膳、後片付けをする。避難所や自宅から通う男女１８人が登録。午前９時から午後２時まで、毎日８人前後が出勤している。

震災当初は、菅野さんらが食材を調達し、避難所の被災者が当番で調理した。しかし、自宅の後片付けや求職などで徐々に人が集まらなくなり、一部の被災者に負担が集中。菅野さんは「このままでは続けられない」と考え、調理を仕事として認め、食事の提供を継続させる方法を提案し、５月上旬に導入した。

賃金は、一般企業や財団から被災地支援をするＮＧＯに贈られた寄付の一部を活用。このＮＧＯに加盟する団体を通じ、支援を受けている。

自宅が被害を受け避難している安藤とも子さん（５０）は、勤務先の水産加工会社が被災し仕事がなくなった。中学１年の長男がおり、５月半ばから働き始めた。「経済的に助かる。仕事がないと苦痛。少しでも働けると気が晴れる」と顔をほころばせる。（2011/06/03-06:03）


YAMASA®
AMUSEMENT FACTORY
2011. 8